

令和4年度第1回林業アカデミーふくしま運営会議 議事概要

- 1 日 時 令和4年11月1日（火）13：30～15：30
- 2 場 所 林業アカデミーふくしま講義室（県林業研究センター敷地内）
- 3 出席者 別紙出席者名簿のとおり

4 結 果

（司会進行：伊藤主任主査）

○挨拶 柳田農林水産部森林林業担当次長

皆様の御協力のもと、この4月より林業アカデミーふくしまを本格的に開講し、8月には新施設も完成、9月8日に施設完成記念式典を執り行い無事供用開始となったところ。

現在、就業前長期研修においては、14名の一期生が幅広い知識の習得や各種資格の取得、インターンシップでの体験就業などに意欲的に取り組んでおり、市町村林務担当者や林業従事者等を対象とした短期研修においては、森林・林業の基礎知識や業務で必要な実務、森林施業の技術力向上に向けた各講座を開いているところ。

本日は、今年度上半期の就業前長期研修、短期研修の実績や令和五年度第二期研修生の応募状況を御報告するとともに、下半期への課題や今後の研修計画等について、委員の皆様より御意見や御助言をいただきたいと考えている。

限られた時間ではあるが、皆様には忌憚のない御意見を賜るようお願い申し上げます。

○議事（議事進行：金子座長）

議題（1）～（4）（長期研修関係）

【事務局】

（資料1～8に基づき説明）

【委員の意見】

〈丹治委員〉

県内出身研修生は近隣にアパートを借りているのか。

《事務局》

中通り出身者は多くが通学している。会津・浜通り出身者はアパートを借りて研修受講している方が多い。

〈飯沼委員〉

事務局として研修生の成長の様子をどのように感じているか。

《事務局》

研修生は2回のインターンシップも経験し、自身が林業に就業する具体的なイメージが見えてきた感がある。なお、休日に家業を手伝うことで林業の技術研鑽を積める研修生もおり、そのような環境にない研修生との差が生じてきている点が課題と感じている。

〈飯沼委員〉

昨年度の会議の間では、研修生が休まざるを得なくなった場合でも自主学習の時間等で該当する講義をフォローできる体制を取っていた記憶があるが、今回のカリキュラム案もそのようになっているか。

《事務局》

予備日的な日も設けていることに加え、資格の取得などは教習所に赴き個別に受講させる対応も可能。

〈前田委員〉

幅広い年齢層の研修生がいると思うが、研修生同士の関係性はどうか。

《事務局》

年齢が上の研修生が率先してリーダー役となっている姿が見受けられる。また、社会人から入講した研修生は背負っているものが違い、そのような背中を若い研修生が見て意欲的に学ぶということもある。幅広い年齢層であることで良い影響があると考えている。

〈前田委員〉

インターンシップ受け入れ事業体からの意見はどのようなものがあるか。

《事務局》

事業体には原則研修生に対する指導員をマンツーマンで付けていただくようお願いしているが、指導員を確保するのが負担との意見があった。また、どのような作業をしてもらえば良いか悩んでいる事業体もあった。事務局としても受け入れ事業体と十分に事前調整を図っていきたい。

〈遠藤委員〉

資格の取得に関し、一回で合格せずリトライしたような状況はあったか。

《事務局》

架線集材は座学終了段階での筆記試験全員合格。それ以外の資格は全て一回で取得済みであり、リトライした事例はなかった。

〈遠藤委員〉

資料4において「研修でグラップルはやらないのか」「実際に林業で玉掛けを実施する場面があるのか」との意見があるが、どうなのか。

《事務局》

いずれも林業の現場で必要なものであり、研修でも使用する。

〈田子委員〉

いわき市森林組合でも女性の研修生1人をインターンシップで受け入れ。社会人からアカデミーに入講した研修生でやはり覚悟が違うと感じた。また、指導員も事前に教える内容を予習するなどの姿も見られ、インターンシップ受入はお互いにWin-Winの関係になった。

研修内容に関する意見として、講義内容のストーリー性、関連性を意識した研修運営を意識していただきたい。

〈五十嵐委員〉

①当社でも10月のインターンシップを受け入れた。研修生も一緒に現場に行き、アカデミーで学んだ内容を現場で具体的にイメージできた様子。当初は受入困難かと考えていたが、福島県の林業を担う人材とコミュニケーションを取れる場と考え、事業体側もあまり構えなくとも受け入れられるかと感じた。

②インターンシップの中で立木伐採を体験してもらったが、立木を伐採するのは初めてとのこと。インターンシップで体験する内容はその前に実習を積むべきと感じた。

③また、インターンシップ中はチェーンソーの目立ても行ったが、やはりメーカーが教える内容と現場とでは視点が違うと感じた。来年度以降、可能であれば現場目線の目立て実習も組み込んでもらえればと思う。

④ハチ刺され等のトラブルがあったとのことだが、実際の現場ではそのようなリスクをゼロにするのは困難と思う。労働災害やトラブルをゼロにするための研修に加え、もしそのような事態が起こった場合に軽減させるような内容も実施してもらいたい。

《事務局》

②まずは基礎からということで固定した丸太による伐倒作業の実習を行っていたが、研修生からも立木伐採の要望もあるため、次年度以降考慮したい。

③④まずは原理原則からということで研修実施していたが、講師等確保できるようであれば、検討したい。

〈金子座長〉

事務局からの事前情報では、研修生は全員入講前にハチアレルギー検査実施済みとのこと。

〈丹治委員〉

資料6において、高性能林業機械資格取得の講義時間が減少しているのは、一部機械の資格取得を取り止めるということか。

《事務局》

他の資格を取得済みの場合には一部科目が省略可能ということが判明したためであり、資格取得の内容自体は変更していない。

〈高木委員〉

資料5で実習フィールドの確保が課題となっているが、来年度の見通しは。

《事務局》

今年度も一部実習で国有林の現場を活用させていただいた。間伐の現場などは面積が広く、来年度以降も間伐予定があるため、継続して同一現場を活用させていただく予定。

その他も可能な限り近隣に確保して研修を実施していきたい。

〈高木委員〉

国有林のフィールド使用要望があれば、早めに調整をお願いしたい。

時期的にちょうど今次年度の事業計画を検討しているところ。

議題（5）令和4年度短期研修 上半期の運営状況

【事務局】

（資料9及び10に基づき説明）

【委員の意見】

〈小松委員〉

短期研修については市町村職員にもっと参加してもらいたい思いがある。事務局で把握している参加しにくい理由などあるか。

《事務局》

昨年度市町村等に対するアンケート調査を行い、研修日数や時期等改善を図ってきたところ。今年度もさらなる改善点が見いだせれば、対応していきたい。

〈小松委員〉

より多くの職員に受講してもらえるよう、受講生の募集等で協力していきたい。

〈飯沼委員〉

年間スケジュールを組んでの研修実施がベースになろうとは思いますが、時々行政需要に応じたタイムリーな講義も実施できると多くの市町村が参加してもらえると思う。具体例でいうと、熱海の盛り土問題に起因した今後の情勢等。

また、協会職員も短期研修に参加しており、復命で研修資料を見たが、作り込みがすばらしかった。引き続き研修対象者を十分に意識した効果的な運営をお願いしたい。

議題（６）令和５年度第２期長期研修生の応募状況

【事務局】

（資料１１に基づき説明）

【委員の意見】

〈金子座長〉

第１期生はアカデミーの情報をどこで知ったのか。

《事務局》

ホームページや新聞広告で情報に触れた研修生が多い。

また、第２期生は高校に掲示されているポスターを見てという者も多い。高校への個別訪問を引き続き行っていくことが効果的と考えている。

〈五十嵐委員〉

林業関係以外の場所でポスターやチラシを掲載している場所はあるか。

《事務局》

掲載に協力いただいている民間企業（小売業）があるほか、フェイスブックやユーチューブなどでもアカデミーの様子を発信している。

〈金子座長〉

SNSを介してアカデミーと林業関係者がつながるようになれば良いと思う。

〈遠藤委員〉

推薦選考の定員１０名とのことだが、仮に推薦募集の段階で１０名を超える応募があった場合、不合格者を出し１０名に絞るのか。推薦を受けて応募してくる者を不合格にするのはかなり勇気のいることであり、また不合格者がその後の一般選考合格者より優秀ということも考えられる。

《事務局》

推薦選考は学校推薦等主に若い研修生を念頭に置いているものであるが、社会人経験者等幅広い年代の受講希望者が想定されるため、一般選考の枠も一定程度残す必要があると考えている。

〈金子座長〉

１０名、５名という枠をあらかじめ設けないことも考えられると思う。

議題（7）その他

《事務局》

次回運営会議は2月を予定。

また、このあと新施設の内覧を予定しているため、参加を希望される方はよろしくお願ひしたい。

〈遠藤委員〉

毎回豊富な情報量の資料を提供いただき、感謝。

次回会議に向けた要望であるが、先ほど五十嵐委員からも話しのあった労働災害等発生時の対応に関する研修の予定及び匿名で良いので研修生の悩みとそれに対する対応状況についての情報を提示いただきたい。

以 上